群教セ	G10-01
	平14.205集

内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラムの開発

――小中の連携を国際理解に生かした実践を通して

長期研修員　　赤坂　文弘

≪研究の概要≫

本研究は、内容項目間の関連を重視した道徳の時間の在り方を、国際理解の価値に視点を当てて実践したものである。まず、重点とする国際理解の価値とのかかわりで関連する価値を設定した。次に、一連の学習に価値を深めるための「連携」を組み入れ、子どもの問いが連続していくように総合単元的な道徳学習プログラムを構想した。そして、重点とする場面では、小中の合同授業を実施し多様な価値観との出会いからテーマに迫れるようにした。

【キーワード：道徳　小学校　国際理解　小中学校　学社連携】

Ⅰ　主題設定の理由

「自分自身のよさに気付かせたい、優しい心を育てたい、命を大切にする心を養いたい、広い世界に目を向けさせたい」という思いは、教師の誰もが願うことである。この一つ一つの願いは、道徳の内容項目と深いかかわりがある。つまり、この思いを生かしていくためには、道徳学習を充実させ、学級づくりに反映させていくことが必要である。

これまでの１時間完結の道徳学習においては、限られた時間なのでせっかく高まった価値をより深めていくことができなかったり、連携による多様な体験活動を組み入れにくかったりした。また、一つの内容項目と体験活動を関連づけた道徳学習では、子どもの問いが連続していかないため内容項目間の関連が図りにくいなどの課題があった。つまり、それぞれが単発的な道徳学習であり、教師の思いや願いが反映されにくかった。

そこで、内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習により、子どもの問いをつなげ高まった価値を次の道徳学習でより深められるようにしたいと考えた。そのために、まず、学期ごとに重点とする価値を設定し、その価値とのかかわりで関連する価値を設定した。ここでは、５年生２学期の学級の重点を人権週間との関連から「国際理解」とした。国際理解というと、外国との交流、異文化理解などの取組が考えられるが、道徳学習における国際理解では、その基盤となる人間性や心の在り方に焦点を当てることが重要である。関連する価値として、違いを違いとして受け入れられる心、自分や家族、郷土を大切にしたいという思いが、真の国際理解につながっていくものであると考えた。次に、その一連の学習に価値を深めるための「家庭や地域との連携」を組み入れ、子どもの問いが連続していくように総合単元的な道徳学習プログラムを構想した。そして、重点とする国際理解の場面では、年齢差における見方や考え方の違いに触れる場として小中の連携を取り入れ、小学５年生と中学３年生の合同授業を実践した。最後に、各時間の価値の深まりを問いでつなげ「わたしが考える本当の国際理解」を追求していくようにした。

以上のことから、多様な価値観に気付き、それをつなげていく総合単元的な道徳学習プログラムで国際理解の心や国際親善の心を養いたいと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

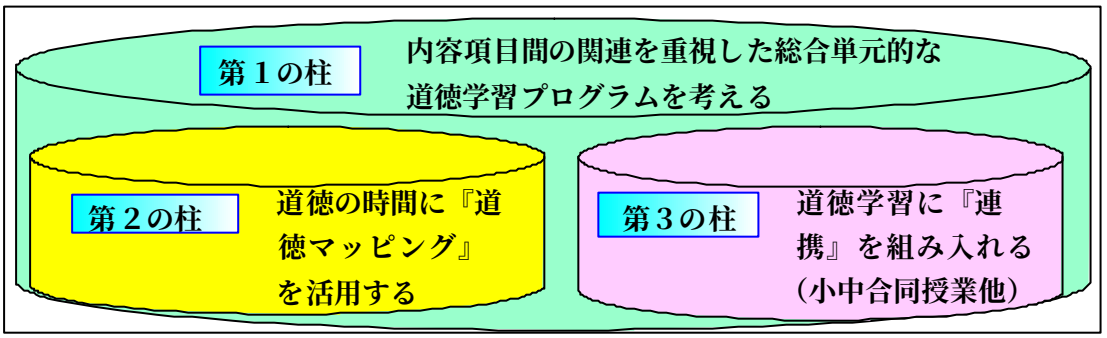
子どもの問いを生かした道徳の時間の指導の在り方を、国際理解を重点とする「内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラム」として構想する。その構想に基づき、多様な価値観に触れながら問いが連続していくような「家庭や地域との連携」を組み入れたり、重点となる国際理解の価値を追求する場面では、「小中の連携」を生かした合同授業を設定したりする。このように、他者とのかかわりから自己と向き合い、自分の見方や考え方を広げることによって価値が深まるような道徳学習プログラムを開発し、その指導の在り方を実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の内容

１　道徳学習における授業改善の視点

本研究では、道徳学習における授業改善の視点を、「内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラムを考える」「道徳の時間に『道徳マッピング』を活用する」「道徳学習に『連携』を組み入れる（小中合同授業他）」の３つとして、以下のように構想した。

【授業改善の３つの柱】



２　内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラム－授業改善・第１の柱－

（１）　内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習のよさ

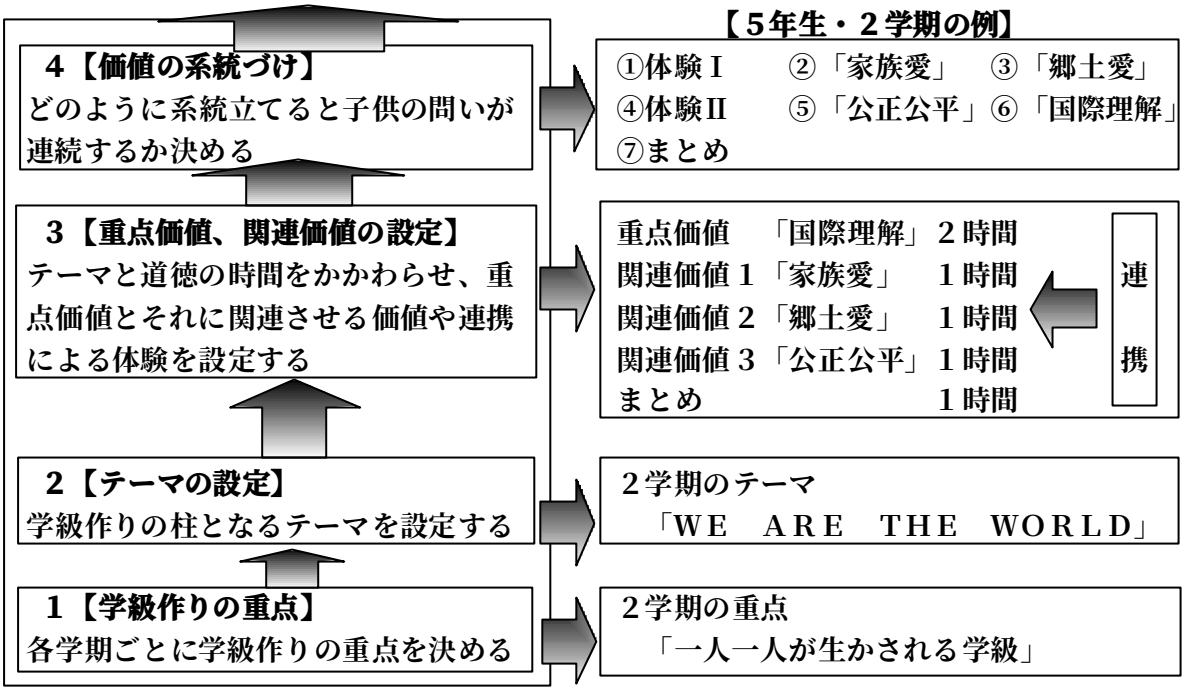
道徳の時間を「内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習」として構想し実践すると、以下の点で授業改善が図れる。

①　学んだ価値の自覚が次の学習に生かせる。
②　問いが連続するので、価値の深まりができる。
③　道徳的な価値項目（高学年 22 項目）間のつながりが明確になる。
④　道徳学習が学級づくりに反映される。

（２）　内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラムの構想

道徳学習を学級づくりに生かすためには、年間を通した活動との関連を明確にしておくことが必要である。そこで、学級経営の視点から「道徳の時間」と「魅力ある学級づくり」とを関連させて計画した。まず、各学期ごとにどんな学級づくりと道徳の時間を関連させるのかを明確にする。つぎに、学級づくりの柱となるテーマを設定し、子どもの思いや願いを生かした道徳の時間を設定する。ねらいとする価値については、各学期ごとに重点化して取り組むという趣旨から、内容項目間の関連を十分に考慮したり一つの項目を複数時間扱ったりするなど、学級の実態に応じて適切に構成していく。ここでは、国際理解を重点として、それにかかわる価値や体験とをつなげ、総合単元的な道徳学習プログラムとして以下のように構想した。

内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラムの構想



本研究は、以下の「５年生の計画例」の２学期の重点とする道徳学習に位置づくものである。

【５年生の計画例】

１学期	２学期	３学期
○「新しい学級づくり」と道徳学習をかかわらせる （１学期 学級づくりのテーマ） 「 出会い、この１年」 －思いやりと協力と－ ◇こんな学級をつくりたいという一人一人の思いや願いと道徳学習を関連づけ、重点化する。 １－（１）思慮・節制　１ １－（６）個性伸長　１ ２－（３）友情　１ ２－（２）思いやり 親切　１ まとめ　１　５時間計画	○「一人一人が生かされる学級」と道徳学習をかかわらせる （２学期 学級づくりのテーマ） 「WE ARE THE WORLD」 －今、私たちにできること－ ◇国際理解教育に視点を当て、違いを違いとして受け入れられるような道徳学習を重点化する。 ４－（５）家族愛　１ ４－（６）郷土愛　１ ４－（３）差別・偏見　１ ４－（８）国際理解　２ まとめ　１　６時間計画	○「共に学んできた友達」と道徳学習をかかわらせる （３学期 学級づくりのテーマ） 「いっしょのクラスでよかった」－すばらしい仲間たち－ ◇１年の最後として、共に学んできた友達への思いやこれからの夢や希望と道徳学習を関連づけ、重点化する。 ２－（４）謙虚・寛容　１ ２－（５）尊敬・感謝　１ ２－（３）友情　１ まとめ　１　４時間計画

（３）　重点価値とする「国際理解」

道徳学習における「国際理解」とは、①自己を素直に見つめ、身近な家族や郷土などのよさに気付き大切にしていきたいという思いをもつこと、②多様な価値観に出会うことによって、自己を内省し一方向からだけでなく多方面からものごとを見つめ、誰とでも差別偏見なく公正

公平に接していくことの大切さを自覚すること、③異質なものでも、違いを違いとして認め受け入れられることなど、世界の人たちと共に生きていこうとする人間性のことである（図１）。

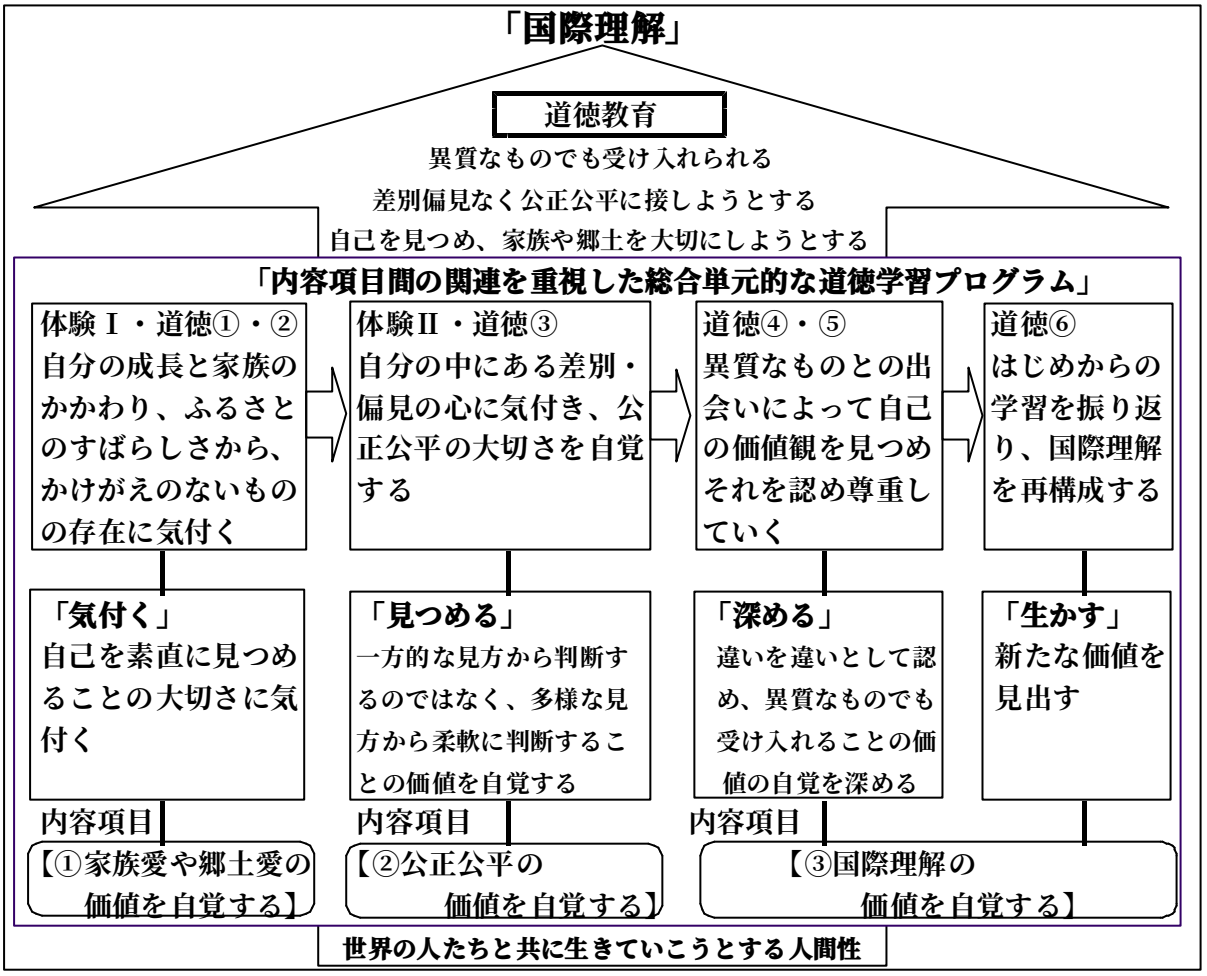


図１　「国際理解と道徳教育とのかかわり 」

（4）　道徳教育と国際理解とのかかわりにおける系統と留意点

低学年

この学年は、他人の立場を認めたり、理解したりする能力が発達する。集団性では、集団の一員としての意識を持ち集団とのかかわりを積極的に深めていこうとする。

そこで、国際理解とのかかわりでは、「人とかかわろうとすること」を重視したい。人とのかかわりを深めていくためには、相手に対する思いやりの心や相手の立場に立った考え方が必要な資質として求められる。人とのかかわりを持つことは楽しい、たくさんの友達ができてうれしいなど、国際理解のはじめとして、身近な人とのかかわりに対する価値を見出させたい。

中学年

この学年は、自主性の発達が見られたり仲間集団として行動したりすることが顕著に見られる時期である。自分のしたことについては、ある程度反省しながら自己を振り返るなど、自分を内省できる力も身に付いてくるなど、個から集団へと、視野の広がりが見られる時期である。

そこで、国際理解とのかかわりでは、「人や文化に関心を持つこと」を重視したい。自分の住む地域には、地域を大切にしようと取り組んでいる人たちがいる。その人たちの思いや願いに触れることから地域の特色に目を向け、さらに、日本の特色についても視野を広げ、その発

展として外国の様子についても関心が持てるようにしたい。

高学年

この学年は、自律的な態度が発達し、責任感や判断力がついてくる。社会性も発達し、共によりよく生きようとする価値観も生まれてくる。また、抽象的、論理的に思考する力も培われてくる。

そこで、国際理解とのかかわりでは、「日本文化を大切にし、国際親善に努めようとする心」を重視したい。日本には世界に誇れる文化遺産がある。社会科等の関連で学んだ日本の伝統文化に対する価値を自覚させたい。また、この時期の特徴でもある理想主義的な思考を大切にし、自分とのかかわりから国際親善に努めようとする夢や希望を育んでいきたい。

中学生

中学生は、他者との連帯を求めることや主体的な自我の確立、自己の生き方についての関心が高まってきたりする時期である。

そこで、国際理解とのかかわりでは、「異文化への理解を深め、どの国の人々とも差別や偏見を持つことなく尊重し合えること」を重視したい。世界の優れた遺産や伝統文化について理解を深めていくのもこの時期である。国際的な視野に立ち、世界で活躍できる日本人としての自覚を育てていきたい。

（５）　内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習の過程

総合単元全体とそれを支える道徳の時間の学習過程を、以下の通り「気付く」「見つめる」「深める」「生かす」の４つの過程と考えた。

【総合単元全体の学習過程】

４つの過程	総合単元全体	実践例【５年生　２学期・国際理解】
「気付く」	・総合単元的な道徳学習のスタート。 ・計画した「体験活動」や「道徳１」で、単元全体の基盤となる価値を追求する。	【家族愛・郷土愛】 ・「世界」の出発点は「自分・家族・郷土」など、身近な存在のよさに気付くこと。そして、その価値に迫る。
「見つめる」	・単元の重点となる価値と直接関連した価値を取り上げ、子供の問いを次へつなげる。	【公正公平】 ・差別や偏見なく接していくことが、重要。その価値に迫る。
「深める」	・総合単元で重点としたい価値を追求する。場合によっては、複数時間を割り当てる。	【国際理解１・２】（２時間扱い） ・国際理解の意味や大切にしたいことの価値について迫る。
「生かす」 ※詳細は資料編・指導案最終回（まとめ）を参照	**総合単元的な道徳学習では、ここがポイント** ・これまでの学習を振り返る時間。 ・各時間の「自分はこう思うんだ」を生かして、本単元のまとめをする。価値の深まりをカードに書き出し、大切にしたいことを想起しながら新たな価値を再構成する。 ※学校と家庭との連携を図るため、道徳の時間の学びを学級通信等で	【国際理解３・まとめ】 ①「道徳２ＷＡＹファイル」の各時間の中で、大切なことに線を引き、付箋に書き出す。 ②グループ全員の付箋を台紙に貼り、各時間の価値を確認する。付箋に貼っていくときには、必ず書いたことを読みながら貼る。 ③班全員の付箋の中から、「私が考える本当の国際理解とは・・・」について、５つの大切なことを書き出す。 ④５つの大切なことから「私が考える本当の国際理解とは・・・」をまと

	知らせる。（道徳２ＷＡＹ通信）	め、価値を再構成する。

３　道徳の時間に「道徳マッピング」を活用する－授業改善・第２の柱－

道徳の時間の授業改善を図るため、学習過程の中に「道徳マッピング」（付箋に考えを書きマッピングしていく）を取り入れ、一人一人の考えを生かすようにする。マッピングは、価値の追求場面で「自分の考えをたくさん出させたい」「友達の考えに触れさせたい」「自分の考えを整理させたい」などの場面で活用すると効果的である。

【「道徳マッピング」を取り入れた学習過程】

４つの過程	道徳の時間	実践例【５年生　２学期・公正公平】
「気付く」	【導入】 ・事前の体験などを基に、価値について焦点化する。 ・本時の学習課題を知る。	・留学生が日本に来て、「よかったこと、困ったこと」の一覧からの中から、「日本に来て差別偏見を感じたことがある」ことを取りあげ、学習課題「仲間はずれについて」を設定する。
「見つめる」 ↑ 道徳マッピング	【展開・前半】 ・読み物資料や体験から、どんな価値があるのか見つめ思いを広げる。 ・人物の言動について、**付箋に自分なりの考えをできるだけたくさん書き**、班で仲間分け（マッピング）していく。 ・自分の考えを言いながら台紙に付箋を置くようにする。	・読み物資料「あの子は　うちゅう人？」を読み、思ったこと感じたことに線を引く。 ・班の人と線を引いたところを確かめ合う。なぜ引いたのか、理由も付け加える。 ・仲間はずれにされた「すずきくん」（外国人）の気持ちと仲間はずれにした「ぼく」の気持ちを、ピンクと黄色の付箋に分けできるだけたくさん書き出す。 ・班でピンクと黄色の付箋を仲間分け（マッピング）していく。貼るときには、自分の考えを付け加える。
「深める」 ↓	【展開・後半】 ・人物の言動などから価値を焦点化し、高まった価値を基にしながら、「本時の課題」について自分の考えを明確にして書く。	・大きめの付箋を用意し、本時の課題「仲間はずれについて」自分なりに高められた考えを書く。 ・「自分はこう思うんだ」「今の自分にできることはこれだ」という思いを明確にして書くようにする。 ・班ごとに台紙に貼り、班で交換しながらいろいろな考えに触れるようにする。
「生かす」	【終末】 ・これまでの学習を生かして、価値についての自分の考えをまとめる。	・「道徳２ＷＡＹカード」（自己評価カード）で学習の振り返りをする。 ・どのように価値を深めたのか振り返りの感想を書く。

４　道徳学習に「連携」を組み入れる－授業改善・第３の柱－

（１）　多様な価値観との関連を図る道徳学習

本研究では、多様な価値観との出会いを意図的に計画していく。また、子どもの意識につな

がりと深まりを持たせるため、道徳の時間と体験活動（国際交流体験や異校種間の異年齢体験）を一つの流れとしてとらえる総合単元的な道徳学習を考えていく。（図２）

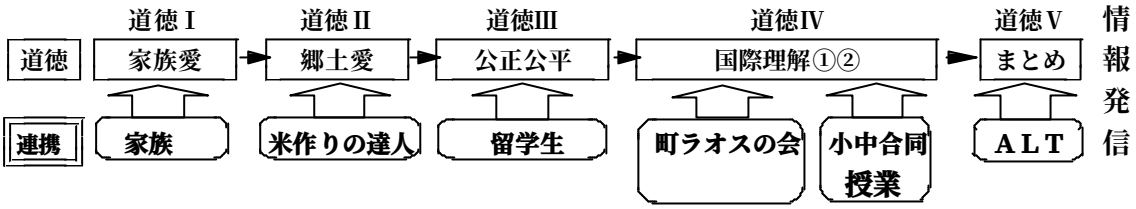


図２・内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラムに、連携を組み入れた計画

（２）　連携の有効性

「共に考える道徳教育」を推進していくためには、様々な連携を重視することが重要である。以下は、道徳教育における学校・家庭・地域社会の連携の有効性である。

連　　携		連　携　の　有　効　性
学　校	校内連携（異学年間）	同じ学校内の異学年間連携は、学校行事や児童会活動など共通な体験活動を行っているので、同一価値での学習がしやすい。また、上学年では低学年に対する思いやりの心、低学年では上学年に対する尊敬・感謝など、学級を越えた価値の深まりが見られる。
	学校間連携	学校間の連携では、学習する環境の違いと年齢差から校内連携では見い出せない多様な価値観に出会うことができ、自己の見方や考え方をより深めることができる。
家　庭		家庭との連携では、価値追求場面で父母など家族の思いや願いを学習に直接生かすことができる。また、道徳通信により、学びの成果を家庭に知らせたり、感想を返してもらったりすることで家庭の意識をより深めることができる。
地　域		地域には、個性的な生き方をしている人、夢に向かって努力している人など、豊かな体験をしている人材が多い。その思いや生き方に触れることにより、よりよい価値に出会うことができる。

また、子どもを中心に連携を考えてみると、家庭・小学校・中学校・高等学校と、どれにもかかわりを持っている。それぞれが子どもを中心にして連携し豊かな人間性を養いたい（図３）

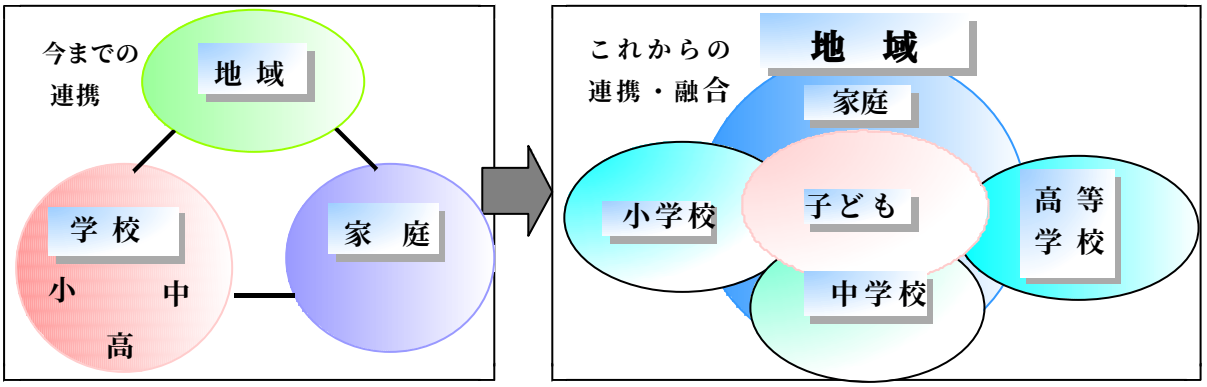


図３　学校・家庭・地域などの連携・融合

（３）　異年齢交流の中からなぜ「小中の合同授業」なのか

自己の世界を広げようとするために、多様な価値観との出会いを生かしたい。これは、同年齢間（学級・同学年）や自校の異年齢間でも育成することができるが、あえて、小中学校という異校種間での異年齢集団が合同授業を通して連携することに大きな意義がある。

小中の合同授業の意義は、以下の３点である。

①　子どもたちの学びを小学校教育、中学校教育と分けて考えがちであったが、義務教育を９年間という枠でとらえ、道徳的価値の追求に連続性をもたせる。

②　開かれた学校を推進していくためには、学びを開くための意識改革が必要である。校種を越えた連携によって、限定されがちな学校教育を改善する。

③　年齢差が大きく、学ぶ環境も違っている子どもたちの交流は、一般社会の人間交流に近づくという点で、社会への入り口である。多様な道徳的価値に触れることで、見方や考え方を深めることができる。

（４）　小中の合同授業のメリット

この実践では、「小中の合同授業」における小学校、中学校のメリットを以下のようにとらえ、重点とする国際理解の価値の追求場面で実施した。

小学校でのメリット	中学校でのメリット
・学校内では触れることのできない、多様な価値観に触れることができる。 ・小学生だった子どもは、必ず中学生になる。これからの進学先となる中学校での学習に、進路指導や生徒指導などとのかかわりで「中学校理解」が深まる。 ・中学生の考えの深さやものの見方の的確さに、自分もそのような中学生になりたいと夢や希望をもつ。 ・中学生という先輩の学ぶ姿に刺激を受ける。	・学校内では触れることのできない、多様な価値観に触れることができる。 ・年齢差による見方考え方の違いから、自己の価値観をより深めることができる。 ・小学生に対して、自分の考えをわかりやすく伝えようと言葉や表現を工夫するなど、思考の再構成をすることができる。 ・小学生の学ぶ姿に自分の小学生の時の学ぶ姿を映し、自己の成長を振り返る。 ・小学生という後輩の学びに刺激を受ける。

Ⅳ　授業実践

１　実践の構想

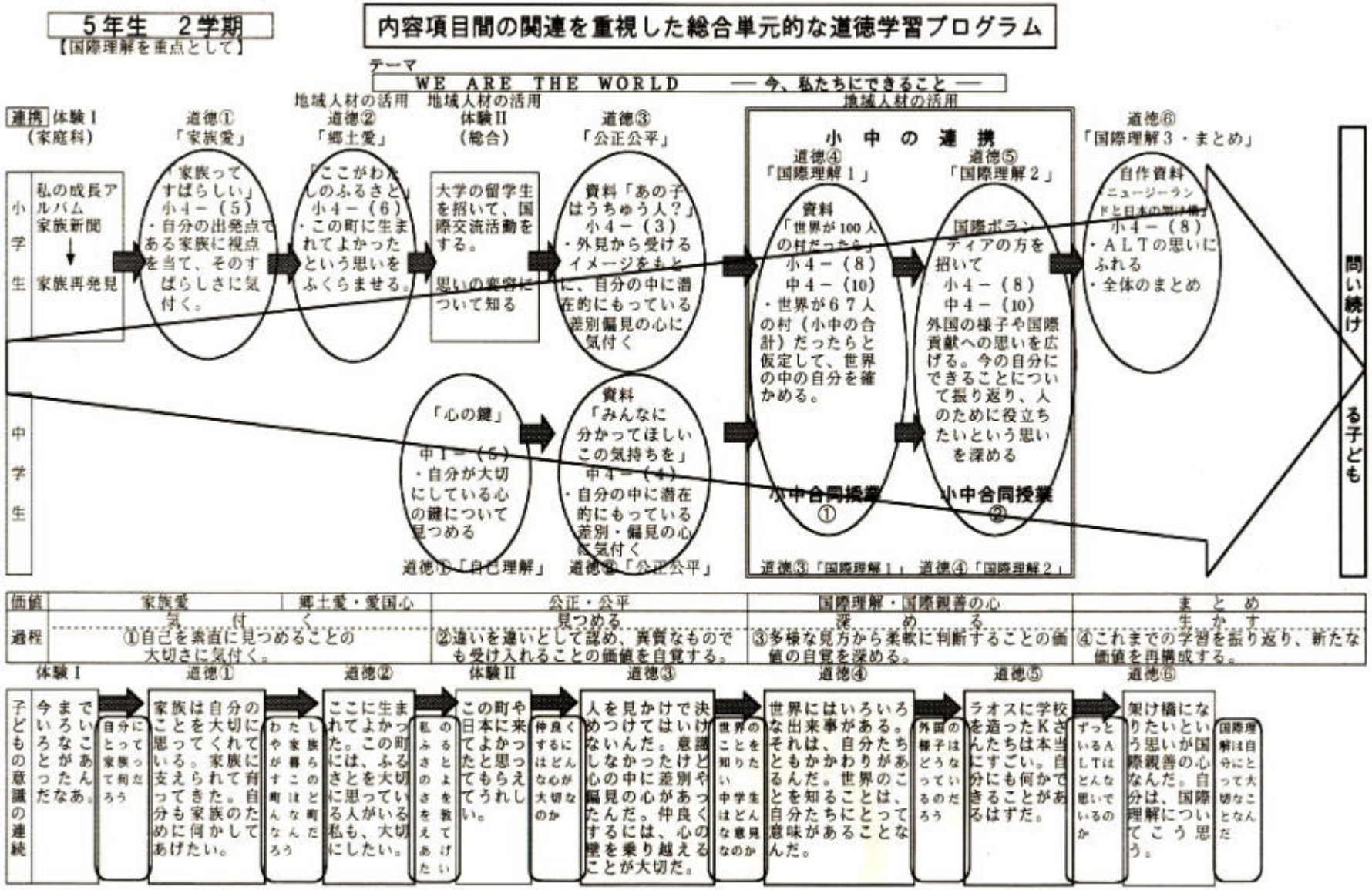
国際理解を重点として内容項目間の関連を重視し、中心となる学習では小中合同授業を組み入れながら、それぞれの価値追求場面で生まれた問いをつなげるような道徳学習を構想した。

①対象　○○小学校　５年生
　　小中合同授業は○○中学校　３年生との合同授業

②期間　平成 14 年 10 月２日（水曜日）～ 11 月 19 日（火曜日）

③時間　小学校　道徳６時間　　総合１時間　家庭科１時間
　　中学校　道徳４時間
　　※小中合同授業２回（道徳）

④構想図　図４は、５年生・２学期における単元構想図である。



【図4　5年生・2学期における単元構想図】

２　実践の概要

小学校５年生、２学期における授業実践である。

道徳学習を学級づくりに生かすために、２学期のテーマを「一人一人が生かされる学級」とした。これは、「人権週間」とのかかわりから、一人一人が大切にされる学級にしたい、自分以外の人にも目を向けられる広い心をもった子どもを育てたいという思いからである。また、１学期に育まれてきた学級内の友だち関係をもう一度見直し、学級集団で向上していくことの意義や共に高め合うことのすばらしさについて考えさせたいと考えたからである。

以上のことから、単元全体のテーマを「WE ARE THE WORLD」－今、私たちにできること－」とし、道徳学習の重点価値を「国際理解」とした。

（１）　小学５年生対象

ア　道徳①「家族愛」

国際理解の出発点として、自分や家族に視点を当てた。

「自分にとって家族とは何だろう」から、自分や家族の存在を見つめ直し、自分や家族をかけがえのないものとして自覚することが世界に目を向ける第一歩であると考えたからである。

まず、事前の活動として、家族に自分の成長の様子を取材して「私の成長アルバム」（資料１）を作成したり、家族を紹介する「家族紹介新聞」（資料２）を作成したりした。次に、「道徳①」で、読み物資料「生きてます 15 歳」から母の子どもに寄せる愛情の深さについて考えた。資料と関連させて自分の成長と家族のかかわりについて振り返ったり、家族からもらった手紙を読んだりした。

資料１　私の成長アルバム

資料２　家族紹介新聞

イ　道徳②「郷土愛」

国際理解の基盤として、自分のふるさとを大切にしたいという思いをもたせたいと考えた。そこで、道徳１での学習の深まりから、「私や私にとってかけがえのない家族が暮らすこの町は、どんな町なんだろう」を、この時間につなげた。

ゲストティーチャーとして、総合的な学習の時間に米作りでお世話になっているＫさんから、町や農業のすばらしさ、町に寄せる思いや願いなどを語っていただいた。後半では、「ふるさと板倉をよりよくしていくためには、どんなことが必要なのだろう」から、郷土に対する思いを深めていった。

ウ　道徳③「公正公平」

道徳②において、この町のよさについて再発見したことを基に、次の「総合的な学習の時間」で、地域の留学生との交流会「この町をすきになってほしい」を計画した。ゲストの留学生に町のよさを積極的に伝えていく中から、留学生が感じた「日本のよさ」や「日本と自国の違い」「日本に来て困ったこと」など、小グループで意見交換した。

本時では、読み物資料「あの子は、うちゅう人？」を使い、外見からの差別偏見に気付き、公正公平な態度で誰にでも接していこうとする心情に迫った。

（２）　中学３年生対象

ア　道徳①「自己理解」(「心の鍵」)

次の小中合同授業の「国際理解」と関連する価値について、中学３年生を対象に２時間の授業を行った。

ここでは、「心のノート」（中学校編）を活用し「自分が大事にしたいこと（自己理解)」について見つめ直す時間とした。「心のノート」から自分が大事にしている心の鍵を書き出し、学級全体の傾向を参考にしながら、自分はこれからどんな心の鍵を大切にしていきたいかについて考えた。

イ　道徳②「公正公平」

前時の道徳１では、「大事にしたい心の鍵」を考えた。一人一人真剣に自己と向き合ったり、友達の考えに耳を傾けたりすることができた。この違いを素直に受け止めることを、本時で扱う「差別偏見の心」につなげていくようにした。

本時では、読み物資料「みんなにわかってほしいこの気持ちを」（群馬県版）から、外国人に対する差別偏見について考えた。

（３）　小中合同授業

ア　小・道徳④、中・道徳③　「国際理解１」

ここでは、「世界のことを知ることは、自分にとってどんな意味があるのか」について考えた。自分とのかかわりで考えられないと、結局は他人事になってしまうと考えたからである。

国際理解の基盤として小学生では「家族愛」・「郷土愛」・「公正公平」について学習してきた。中学生は「自己理解」「公正公平」について学習してきた。このことを生かして国際理解・第１時を行った。

イ　小・道徳⑤、中・道徳④　「国際理解２」

前時の学習「世界のことについて知ることは、自分にとってとても重要なことなんだ」から発展させて、本時では、「板倉町ラオスの会」の方を招いて、実際に国際理解に積極的に取り組んでいる様子を語っていただいた。国際理解というと、遠くてあまりにも広いという意識があるが、自分たちの身近なところで活躍している人を知ることで、身近なものに感じられることと、自分たちにも何かできることはないかが考えやすいからである。後半では、「国際理解で大切にしたいこと」について、小学生と中学生で考えを出し合いながらカードにまとめていった。

（４）　小学校５年生対象

ア　道徳⑥　「国際理解３・まとめ」

前時は「国際ボランティア」について学習した。国際理解にはその他にもいろいろな形のものがある。この時間では「国際親善・国と国の架け橋」として活躍している町のＡＬＴを招いて、その思いについて考えた。「もう一つの国際理解」である。後半では、今までの学習のまとめとして、「道徳２ＷＡＹノート」の感想をはじめから見直し、それぞれの学習で大事だと思うことをカードに書き出していった。それを「本当の国際理解とは」という視点で見直し、自分なりの国際理解をまとめていった。

Ⅵ　実践結果と考察

１　各時間における抽出児の変容

（抽出児Ａ子を中心に考察した。Ａ子・Ｂ男・Ｃ子は小学生、Ｄ子・Ｅ男は中学生である）

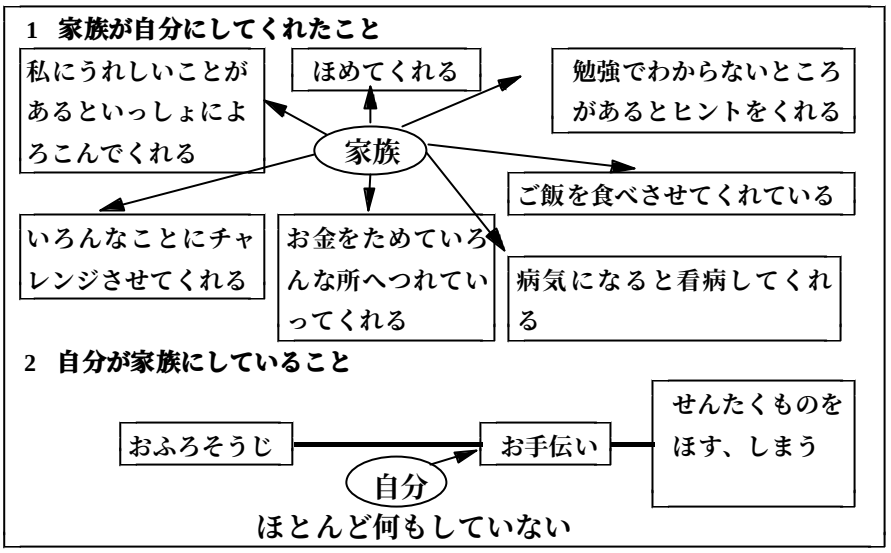
（１）　小学５年生対象

ア　道徳①「家族愛」

Ａ子は、「私の成長アルバム」「家族紹介新聞」づくりや「家族と自分の比較」（資料３）を通して、次のような考えを持つことができた。

「家族は自分にとってとても心の支えになってくれるそんざいだと思います。けがや病気の時には心配してくれて、うれしいときには喜んでくれます。これからも、家族を大切にしていきたいと思います。」と、家族が自分にしてくれたことの多さに比較して、自分は家族に対して何もしていないことに気付き、そのことから、家族のために今度は自分が何か役に立つことをしてあげたいと、家族に対する思いの深まりが見られた。

資料３　Ａ子（小学生）の「家族と自分の比較」



また、事前と事後の「家族に対する考え」を比較すると以下のようであった。

Ａ子（小学生）の学習前の家族に対する考え

・にぎやか、
・たのしい、
・家族は自分にとって大切なもの

変　容

Ａ子（小学生）の学習後の家族に対する考え

家族って、自分にとってとても大切なんだなと思いました。お父さんとお母さんが思っていることを読んだらお父さんとお母さんの気持ちがよく分かりました。でも、じっくり読んだら涙が出ちゃう。ここで涙を流したらおかしく思われてしまうからがまんしたけれど、こんなことを思っているというのをはじめて知りました。これからは、お父さんやお母さんの気持ちを考えて行動しようと思います。

家族が自分に寄せる思いに対する感動「じっくり読んだら涙が出ちゃう！」や家族に対する感謝の言葉「これからは、お母さんやお父さんの気持ちを考えて行動しようと思います」から家族を大切にしていきたいという価値の自覚が深まったと言える。

イ　道徳②「郷土愛」

Ａ子は、この町で大切にしたいことについて「自然」と「歴史」を挙げた。その理由として「未来まで残しておきたいから」「未来のため」と記述した。また、ゲストティーチャーのＫさんについては「お米にくわしい、環境にもすごくくわしくてすごい、お米を売るときはお客さんに喜んでもらえるようにと考えている、環境もそれで変わるんですね。」など、農業に対する思いをしっかり受け止めていた。ふるさと板倉についての思いを資料４のように表現した。

資料４　Ａ子の町に対する思い

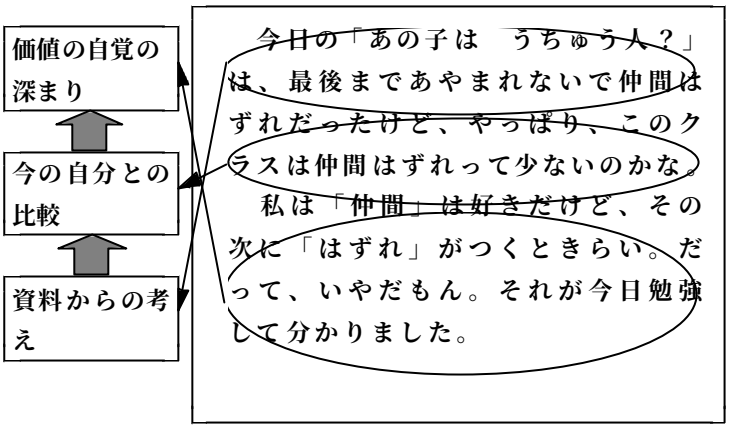
・お米があって、おいしいから板倉が大好き
・心がやさしい人がたくさんいる
農業をやっている人がたくさんいるし、ふるさとだから大好き
・板倉はいなかだけど、いろんな経験ができから板倉が大好き

これらのことから、自分の住む町に対する思いを深めていることが分かる。

ウ　道徳③「公正公平」

A子は、授業後の感想を資料５のように書いた。学級の友達関係と関連させて「仲間はずれ」について自分のこととして考えている。「仲間はずれは大きらい」「仲間はずれはいやなものなんだ」と、この価値に対して強い決意を表している。

資料５　A子（小学生）の授業後の感想と価値の自覚の深まり



（２）　小中合同授業

ア　小・道徳④、中・道徳③「国際理解１」

「世界を知ることで大切にしたいこと」について、事前調査の段階でA子は、「他の国のことを知ること」と書いた。B男は、「その国と日本の関係」と書いた。２人ともこの価値についての意識が低いことが分かる。右の資料６、７は、国際理解１での「世界のことについて知ることは、どんな意味があるか」について、道徳学習後の２人の感想である。

資料６　A子（小学生）の感想

私は国際理解のことが、国にとって大切だと思いました。なぜなら、もし、国同士が信頼しなかったら輸出や輸入ができなくなる。それに、相手の国のことを知らなければ、たいへんなことになってしまう。やっぱり国際理解って大切だなあ。国際理解って自分たちにとっても相手の国にとっても大切なものなんだなあ。

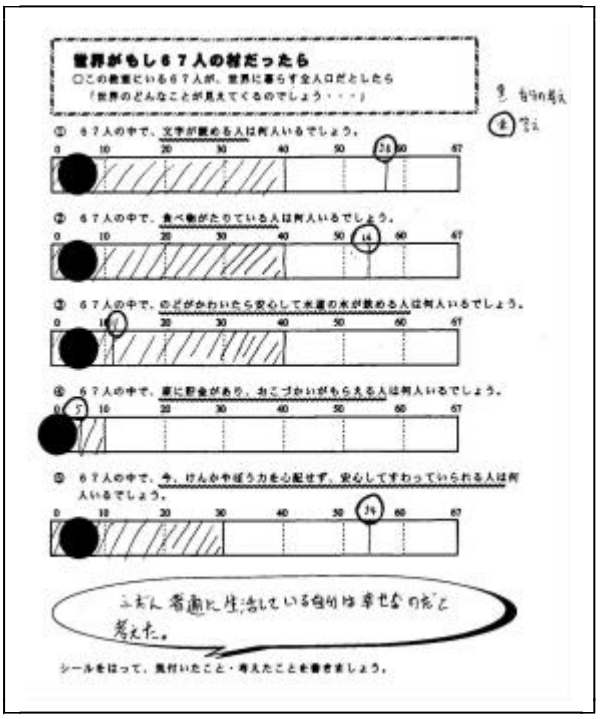
資料７　B男（小学生）の感想

ぼくは、今日世界のことを知っていた方がいいわけが分かった。世界のことを知るわけは、自分たちを安全にし、国と国が仲良くなって国際交流につながる。今の自分がものすごく幸せなことが分。かった

A子もB男も、なかなか身近なものとしてとらえにくい「国際理解」について、大切さを実感している。また、B男は、世界の中の自分について見つめ直し、「自分は（世界の中で）ものすごく幸せ」と見方を広げていることが分かる。

D子、E男は中学３年生である。「世界が、もし６７人の村だったら」での、グループ学習では小学生に積極的に話しかけ、上級生ぶりを発揮していた。資料８のようにワークシートの問題の予想と結果に大きな違いがあり、新たに世界の中の自分を発見していた。資料９、10は授業後の感想である。E男は、国際問題が「全く自分と関係ない問題ではない」「耳を傾けなくてはならない」など、自分とのかかわりでとらえている。

資料８　E男（中学生）のワークシート



資料９　D子（中学生）の感想

世界には自分がかかわっていなくても、苦しんでいる人（食べ物がないなど）がたくさんいることが分かった。小中合同授業については、だいたい私たちと同じことを考えていたので、話し合いもしやすかった。またこういう機会があればいいなと思った。小学生はかわいかった。

資料 10　E男（中学生）の感想

世界には思ったより安心して水が飲めない、貯金がない人々が多いということを知った。このようなことは、全く自分と関係ない問題ではないし、今起こっている国際問題に耳を傾けなくてはいけないのだと思った。小学生といっしょにおこなう授業はとても貴重な時間だと思うのでよかった。

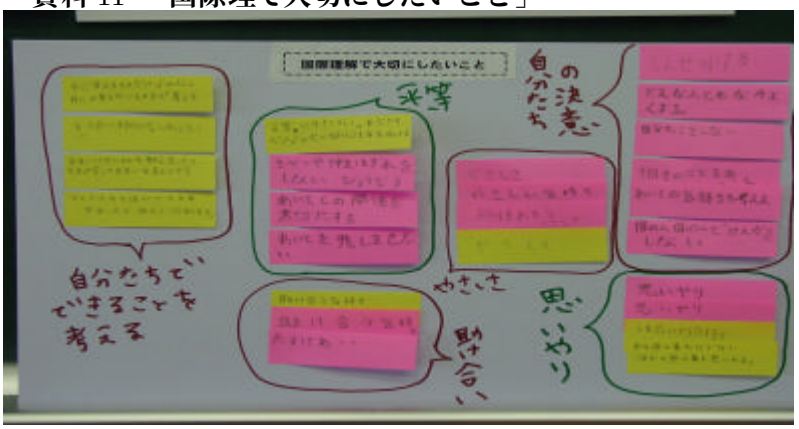
イ　小・道徳⑤、中・道徳④「国際理解２」

ここでは、「国際理解で大切にしたいこと」について考えた。ラオスの国に学校を造ろうとしたKさんの思いと学校を造ってもらったラオスの人たちの思いを、小学生と中学生で話し合いながらカードにまとめていった。A子の班では「国際理解で大切にしたいこと」について、資料 11 のような考えが出された。黄色は中学生の考え、ピンクは小学生の考えである。

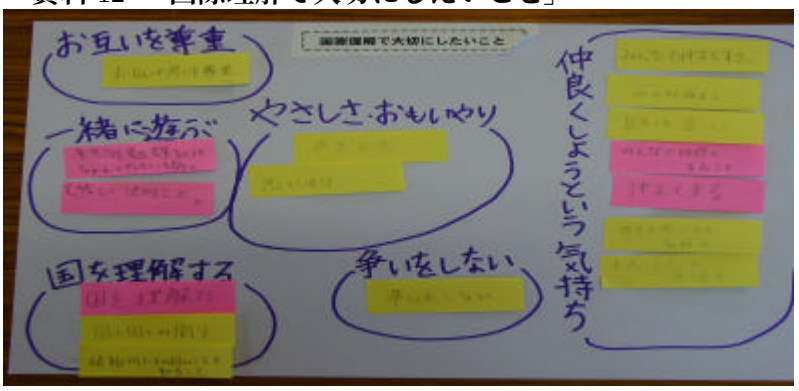
「自分たちの決意」は小学生の意見（ピンク）しかない、「自分たちでできることを考える」は中学生の意見（黄色）だけしかなかった。

また、資料 12 では、小学生は、「一緒に遊ぶ」「国を理解する」「仲良くしようといという気持ち」の３つ項目だけしか挙げることができなかったが、中学生は、さらに「お互いを尊重」「やさしさ・おもいやり」「争いをしない」を挙げることができた。

資料 11・「国際理で大切にしたいこと」



資料 12・「国際理解で大切にしたいこと」



小学生や中学生が自分たちだけでは気付かない見方考え方の広がりを、この小中合同授業で感じた場面である。

A子（小学生）は、授業後の感想を資料13のように書いた。「学校に行くのが当たり前と思っていたが、現実には、学校に行けない国の子供たちがいる」「Kさんはすごい」など、この学習を通して、世界の中の自分を確認し、世界に目を向けて活動しているKさんのすごさを感じている。また、「これからは、募金をしたい」「がんばりたい」「ボランティアをしたい」など、世界の人のために役立ちたいという意欲の高まりが見られる。

D子（中学生）は、授業後の感想を資料 14 のように書いた。国際理解で大切にしたいことは「行動に表すこと」と書いたが、これはラオスに学校を造ったKさんの行動力からの考えである。また、それよりも大切なことは「自ら考えること」だと感じ、国際理解というと大きな感じがするが「中学生にも小学生にも役立つことが絶対ある」と、世界に向けて「自分たちにもできることが何かあるはず」と実践意欲の高まりが見られる。

資料13　A子（小学生）の感想

私はKさんのお話を聞いて、Kさんはなんと 12 年間もラオスという国に協力して、やっと３年前にラオスの国に学校ができたそうです。私は世界中どこにでも学校はあるというか、学校は子どもが行って当たり前のように思っていました。けど、Kさんのお話を聞いたら、行きたくってもいけないと言っていて、とてもかわいそうだと思いました。でも、その願いをKさんが少しの人にかなえてあげられて、Kさんはとてもすごい人だと思いました。私は時々、ぼ金箱を見かけます。これからは、ぼ金箱を見かけたらできるだけぼ金するようにがんばりたい。そう思います。あと、ボランティアもやってみようかな。

資料14　D子（中学生）の感想

「国際理解で大切にしたいこと」というのは、もちろん、何か行動に表すことが大切（ボランティアなど）だと思う。でも、それより大切で忘れてはいけないことというのは「国際理解について自ら考えること」だと感じた。考えなければ行動に移すこともできないからだ。だから私は、この道徳のおかげで自然に「国際理解」について考えることができてよかったと思う。自分以外の人たちがどのように考えているかも分かったし、たくさんの意見を吸収することができたから、この授業は忘れてはいけないと思った。もちろん、将来にも生かしていけると思う。「国際理解」というと、とても大きな感じがするけど、私たち中３にも、小学５年生にも役立つことが絶対あると思うので、それを見つけることが今大切なことだと、改めて感じた

（３）　小学５年生対象

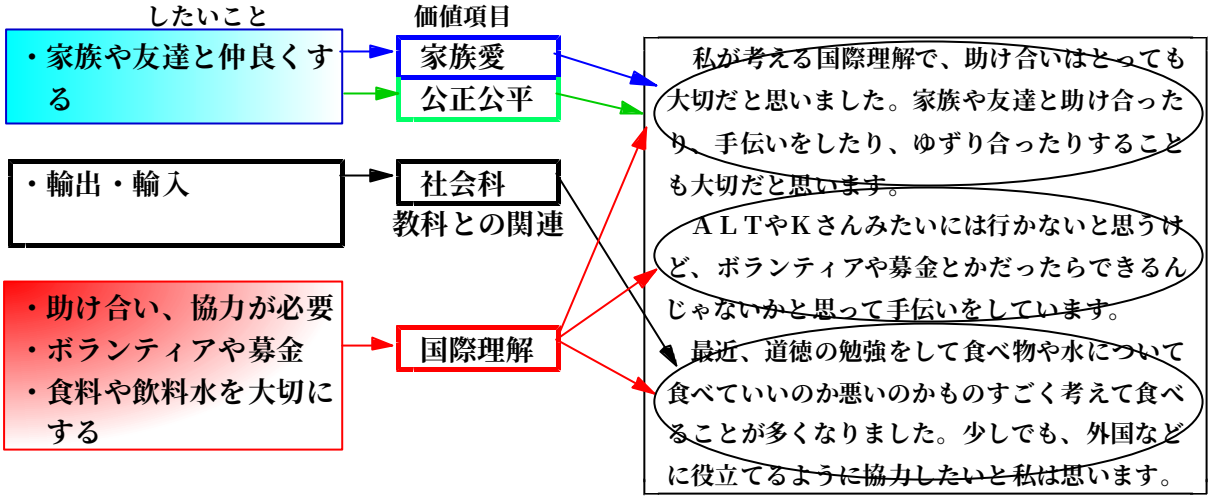
ア　道徳⑥　「国際理解３・まとめ」

今までの学習を振り返って「わたしが考える本当の国際理解とは」をまとめる時間である。A子は今までの道徳学習の中から大切にしたいことを資料 15 のように書き出した。書き出したことを基に資料16のように「自分はこう思うんだ」をまとめていった。

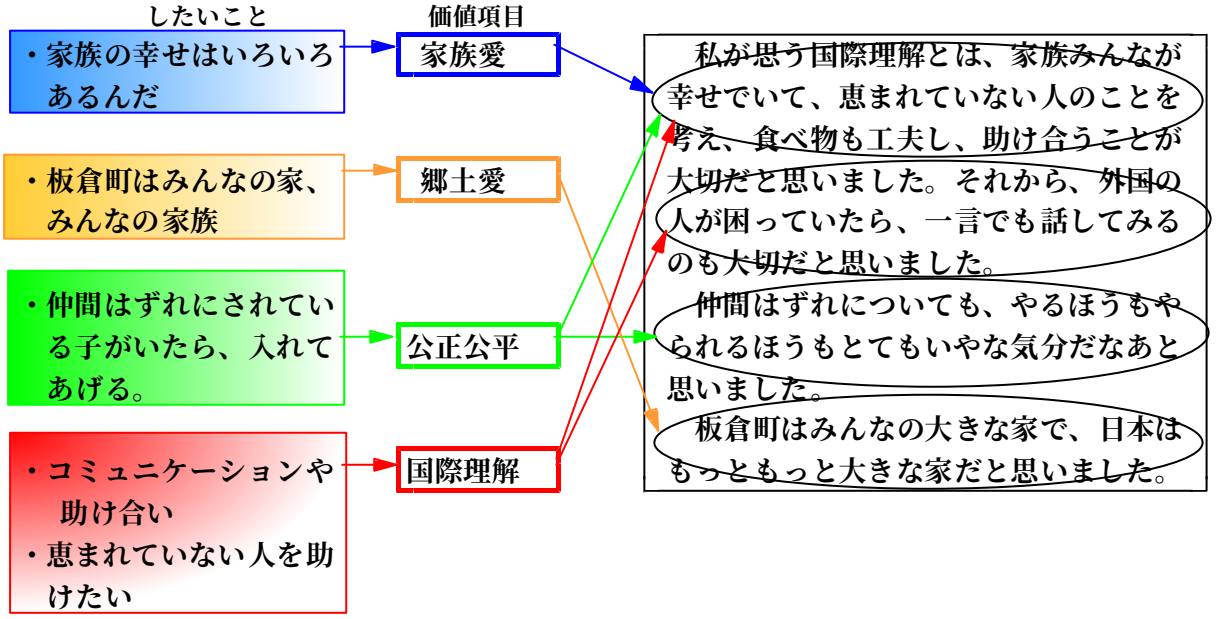
この道徳学習では４つの価値項目をかかわらせて計画してきたが、A子はそのうち「家族愛」「公正公平」「国際理解」の３つの項目を選んでまとめた。「郷土愛」については、選ばれていないので重要とは考えていないことが分かる。また、この学習以外のところから、社会科で学習した国と国の貿易から「輸出・輸入」を重要と考え、A子の見方考え方が広がっていることが分かる。最後の感想に「食べ物や水についてすごく考えて食べることが多くなった」「少しでも、外国などに役立てるように協力したい」とある。この道徳学習が「確かな道徳的価値の自覚」としてA子の中に蓄積されたと言える。

Ｃ子も、資料 17 で書き出したものから資料 18 のように、４つの価値項目から４つを選んでまとめた。まとめの最後には、「板倉町は大きな家で、日本はもっともっと大きな家」というように表現し、家族や地域そして日本が一つにつながっていると考えるようになった。国際理解を身近なものからの広がりとしてとらえていることが分かる。

資料 15　Ａ子が選んだ大切にしたいこと　　関連する価値項目　　資料 16　Ａ子のまとめ



資料 17　Ｃ子が選んだ大切にしたいこと　　関連する価値項目　　資料 18　Ｃ子のまとめ



２　全体の変容

「国際理解で大切なこと」について、資料 19 のように、事前と事後の考えを出された項目に分けて比較した。

事前の考えの中で「⑨分からない」が６名いた。この学習が子供たちの身近な問題でないことが分かる。また、項目数で見ると、事前が８項目に対して事後は 14 項目である。事後の方が６項目多く価値を見出していることが分かる。

事前で最も多かったのが、「①言葉やどんなところか知る（６人）」であったが、事後は 10 位（２人）になっている。また、「③気持ちや心を知る（４人）」「④どんな人とも仲良くする

（２人）」など「心の在り方」に視点を当てているのは 27 人中６人だけであった。このことから、「表面的なこと、目に見えること」から考えていることが分かる。

事後で最も多かったのは、「①差別、仲間はずれをしない」で、27 名中 26 名である。国際理解で大切なこととして、公正公平な見方考え方が重要だと考えていることが分かる。これは、事前には見られなかった項目で、道徳３「公正公平」の学習がここに生かされていると考える。また、「心の在り方」に視点を当てているのは①②⑤⑥⑦⑧⑫⑭など、延べ 100 人中 68 名であった。事後は、「国際理解で大切なこと」について「心の在り方が大切だ」と価値観が変わっていることが分かる。さらに、事前には項目として挙げられていない「③町のよいところを知らせる、見つける（13）」や「④家族を大切にする（12）」は、道徳２「郷土愛」、道徳１「家族愛」での学習が生かされていることも分かる。学習前には、⑨「分からない」が６名いたが、学習後には、全員が自分なりの考えを見出している。

以上のことから、この「内容項目間の関連を重視した総合単元的な道徳学習プログラム」を通して、「国際理解の心や国際親善の心」を養うことができたと考える。

資料 19　「国際理解で大切なこと」について、事前と事後の全体の比較

事前・項目を挙げた人数

「国際理解で大切なこと」	心	人数
①言葉やどんなところか知る		6
②外国のことを勉強する		4
③気持ちや心を知る	○	4
④どんな人とも仲良くする	○	2
⑤外国と日本の関係		2
⑥あいさつ		1
⑦テーマを決める		1
⑧国の名前を覚える		1
⑨分からない		6

事後・項目を挙げた人数

「国際理解で大切なこと」	心	人数
①差別、仲間はずれをしない	○	26
②助け合う、コミュニケーション	○	16
③町のよいところを知らせる、見つける		13
④家族を大切にする		12
⑤思いやり、やさしくする	○	11
⑥ボランティア、募金	○	7
⑦今自分にできることは何か	○	3
⑧自分の気持ちを大切にする	○	3
⑨世界の情報を知る		2
⑩外国や日本を知る		2
⑪作物、食べ物を大切にする		2
⑫互いに認め合う	○	1
⑬輸出・輸入		1
⑭戦争をなくす（平和を願う）	○	1

３　小中合同授業による変容

自己の世界を広げようとするため「国際理解１、２」で小中合同授業を組み入れた。はじめは慣れない雰囲気だったが、学習を進めていくうちに小学生も中学生も年齢差を越えて話し合うことができた。資料 20 は、事前の小学生と中学生の「小中合同授業」への思いである。

小学生も中学生も学校間の年齢差を越えて、この学習に対してたいへんな期待を寄せていることが分かる。

資料 20　事前の小学生と中学生の「小中合同授業」への思い

小学生の「小中合同授業」への思い

・早く中学３年生と道徳をやりたい

中学生の「小中合同授業」への思い

・中３として立派なところを見せたい

	期待	
・どんな意見を言うのか楽しみ、わくわく ・中学３年生の意見ってどんなのかな ・中学生はいっぱい発言しそうな気がする ・中学３年生は道徳をどう思っているのだろう ・レベルの差がありそう ・声をかけずらい、ちゃんとできるかな		・小中の意見の違いを聞いてみたい ・中学生と小学生で意見交換する道徳をしたい ・同じテーマで、小５と中３で考え方がどう違うのか ・小学生は人とのかかわりをどう思っているのか ・年齢差など関係なく楽しくやりたい、共に楽しめる道徳をしたい

写真１

「国際理解１」では、はじめての出会いということもあり「自己紹介カード」を使って互いに話し合う場を設けた。緊張の中にも、温かい雰囲気が生まれ中学生がリーダーシップをとって積極的に活動していた。「国際理解２」では、小学生と中学生がそれぞれの考えをピンクと黄色に色分けて出し合い、考え方や意見の違いを確かめ合うことができた（写真１）。この２時間の「小中合同授業」について、小学生も中学生もとても意欲的に取り組んだ。授業後の感想は資料 21 の通りである。

資料 21　「小中合同授業」に対する小学生と中学生の感想

小学生の感想	中学生の感想
私は、小中合同授業をやって、とても楽しかったです。とくに、先生が「中学生は黄色、小学生はピンク」というとわくわくします。なぜなら、中学生の意見が見られるからです。はじめは、とってもドキドキしていたけど、２回目からはドキドキもなくなり、わくわくになっていました。小中合同授業は、私はとても楽しい時間になりました。楽しい授業にしてくれたのは、中学生だと思います。やっぱり、２７人でやるよりは、６７人でやるほうが楽しいのかなと思います。	小中学生の考えは、あまり変わらないと思ったし、自分たちだけの意見ではなく、違った意見も聞けたし、いつもとは違う道徳でとっても新鮮な感じがした。小学生が加わったことで雰囲気が違ってとてもおもしろかったです。はじめは、どうやって接していけば分からなかったけど、しだいに慣れてきてよかったと思いました。こんなふうに、また小中合同授業をやってみたいと思った。他のクラスの人たちにもやらせてあげたくなるような授業で、とても楽しくて、自然に笑顔になっていました。

Ⅶ　まとめと今後の課題

１　研究のまとめ

（１）　内容項目を関連させると、価値が深まる

中心となる価値（国際理解）と関連させる価値（家族愛など）とのかかわりを十分検討して単元構成をしたことで、子どもたちの中に問いのつながりが生まれた。この問いのつながりによって、道徳学習に価値の深まりが見られた。また、学習の最後に「まとめ」の時間を設定し、一連の自己の学びを振り返り、それぞれの時間で学んだ価値を再構成することで、今まで見出すことのできなかった新たな価値に気付くことができた。

学級づくりとのかかわりでは、「２ヶ月間という、ある一定期間の学習であること」や「学習した価値がつながることで子どもたちの中により意識化されたこと」から、一人一人が生

かされる学級づくりにアプローチすることができた。

（２）「小中合同授業」という異年齢交流は、道徳学習に有効であった

「小中合同授業」は、授業前の予想以上に子どもたちに好意的に受け入れられた。学校と年齢を越えた連携に子どもたちは高い関心を示した。また、同年齢集団だけの学習では味わえない価値観の違いに気付き、充実感や満足感をもって学習することができた。

（３）「道徳２ＷＡＹファイル」が、学びを変えた

この実践では「道徳２ＷＡＹファイル」を活用し、各時間のまとめとして「２ＷＡＹノート」に学習して高まった考えや授業の感想を書き、それを蓄積していった。この確かな学びの足跡を残しておいたことで、いつでも自己の学びを振り返ることができたり、「まとめ」の時間には価値の再構成をすることができた。また、このファイルを持ち帰ることで、 家庭へ学びの姿を知らせることもできた。

（４） 保護者が変わった

学習による子どもの学びの姿を、「道徳２ＷＡＹ通信」として家庭に情報発信していった。学級でどんな道徳学習が行われ、それに対して子どもはどんな価値を見出したのかを知らせることは、「家庭における道徳教育の啓発」という点でも大切なことだと考えたからである。

以下は、学習後の保護者の感想であるが、情報発信により保護者の道徳学習に対する意識を高めることができた。

「道徳２ＷＡＹ通信」や「道徳２ＷＡＹファイル」を読んだ保護者の感想

子どもたちが、自分の誕生から始まり、国際的な広い範囲で学んでいることを資料等を読んでおどろいています。これからの時代を担う大切な子どもたちです。家庭では限界がありますが、学校の授業の中でいろいろな方々の協力をいただきながら生の声を聞き、一人一人がそれに対して感じたこと、しっかりした意見を持っていることに感心しました。真に思いやりなんですね。思いやりは、（戦争も起こらない）平和に通じると思います。次代に活躍する子どもたちが、広い視野に立って他人のことも思いやれる大人になれるよう、私たち大人が示していかなくてはと痛感しました。	この学習をする前は、何不自由のない恵まれた生活を当たり前にしか思っていなかったのではないでしょうか。学習した内容を見させていただき、とてもすばらしいことを教えてもらっているんだなと感動しました。我が子もこの学習を通じて何かを得たのだと感じることがいくつかありました。・前より人を思いやる言葉が多くなった・家の手伝いを自ら進んでしてくれるようになった・素直になった、などなど。また、普段あまり学校のことを話さないのですが、中学生との合同授業はとても楽しかったらしく、いろいろと話していました。 貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

２　課題

この実践では、道徳の価値項目・４の視点「集団や社会とのかかわり」から４つの項目を関連させて構想した。しかし、そのほかにも１の視点や２の視点なども関連させていくとより深まりのあるものになると考える。

「小中合同授業」については、道徳の時間に限らず、特別活動や総合的な学習の時間など幅広く活動できるものがあると考える。開かれた学校という視点から、今回は小学校の教師と中学校の教師が連携を図りながら授業実践を行った結果、子どもたちだけではなく教師サイドの世界も広がったと言える。今後は、小中の学校間連携についても、どんな時間にどんな活動が可能なのか考えていきたい。